式辞

　じっと息を潜めるようにして過ごしてきた季節が一巡りし、再び春の雨が戻ってきました。春風と雨が山々のいろどりをはじめようとしているかのような、そんな佳き日に、日頃お世話になっている同窓会、ＰＴＡ、学校評議員ほか、多くのご来賓の皆様にご臨席いただき、長野県長野高等学校卒業証書授与式を挙行する運びとなりましたこと、喜びに堪えません。

　ただいま、全日制２７５名の生徒の皆さんに卒業証書を授与いたしました。本日お見えになっていらっしゃる保護者の皆様におかれましては、この３年間のできごとが走馬灯のように思い起こされ、お子様の成長ぶりに万感の想いでいらっしゃることと思います。本日はまことにおめでとうございます。

　この思い出深い学び舎を旅立つみなさんに、お話ししたいことがあります。

　北ヨーロッパ、バルト海を望むエストニア・ラトビア・リトアニアのバルト三国は、国土の半分を森林におおわれ、森と湖と歌の国と称されています。これらの国々はバルト海への出口という地理的環境から大国に干渉され、自立を許されぬ困難な歴史をたどりました。20 世紀にはヒトラーとスターリンが交わした秘密協約を根拠に 1944 年に相次いでソ連に占領されました。バルト三国では、その後 50 年にわたる厳しい弾圧の日々がはじまりました。

　ソ連による占領後、わずか数日のうちに、三国の指導者、知識人、軍人、実業家とその家族数万人が強制連行されました。彼らは家畜を運ぶための貨車に詰め込まれ、数週間をかけてシベリアや中央アジアへ送られたといいます。その多くが過酷な労働で命を落としました。

　スターリンはさらに農業集団化を強制するため、大規模な強制連行を行いました。農村部から富裕と見なされた人々を排除し、土地を奪うことで、伝統的な社会構造を完全に破壊したのです。

　市民生活では、町の至る所に秘密警察の目が光り、反体制論者がいないか監視していました。誰が密告者なのかわからない、恐怖による相互監視の日々が続き、睡眠を剥奪したり狭い監房に監禁したりして、自白を強要するための取り調べが日常的に行われたのです。

　スターリンの死後も、ロシア語が強制され、教科書が押し付けられ、ロシア化の政策が続きました。領土の上で圧倒されただけではなく、民族の伝統やその誇りをも空洞化しようとする執拗な制圧が半世紀にわたって実行されたのです。この、自分たちの文化やアイデンティティーを消し去ろうとする長年の抑圧の下で、バルト三国の人々には驚異的な連帯が生まれました。

　ソ連の体制内部の変革と冷戦構造に緊張緩和の機運が高まった 1989 年 8 月 23 日に、人々は壮大な行動をおこしました。地下組織と教会を中心としたコミュニティーを通じ

て、緻密な計画が立てられ、口伝えでその情報が伝えられました。当日はラジオが一斉に合図を放送し、200 万人もの人々が、北のエストニアの首都タリンから、リトアニアの首都ヴィリニュスまで、東京から青森までの距離に匹敵する 670ｋｍにわたって、一斉に手をつなぎ、自由を讃える歌をうたって、人間の鎖「バルトの道」をつくったのです。

「バルトの道」は世界に衝撃を与えました。かつて地図の上に恣意的にひかれた線によって、民族の尊厳は奪われ、多くの人々が命を落とした。しかし、「バルトの道」は、人々の目に見えぬ意志と絆を、銃や暴力ではなく、強固な人間の鎖として表現したのです。

その後、ベルリンの壁が崩壊して冷戦は終結し、国内に残ったソ連派の抵抗を鎮圧して、1991 年三国はついに独立を果たしました。「バルトの道」は 2009 年、ユネスコ世界記憶遺産に登録されました。

今、世界を見渡すと力による現状変更や暴力の専横が、人々の尊厳を脅かす危険な事態が進行しています。バルトの人々が示したのは、自らの存在に関わる定義をいかに制限されようとも、どんなに激しく弾圧されようとも決して死なない、そんな団結の力があるという真実でした。

卒業生のみなさん。真の人間の強さは力で表現されるものではありません。私たちは何万人もの人々と手を取り合うことができる。たとえ相いれない相手と向かい合った時でも、その解決を暴力や報復に求めず、たとえどんなに相手が強大でも、対話と連帯を諦めず、世界の人々と自由で多様性に満ちた社会の実現を、ひたすらに願っている、そういう人になってください。

皆さんが共有する長野高校で学んだ３年間の、ひたむきな日々の思い出が、ここにいる一人一人を互いに結び付ける頼もしい絆となって、いつまでも温かくあなたがたの可能性に満ちた行く末を導いてくれるものと思います。

最後に 皆さんの卒業を心から祝福している保護者の皆様、同窓会の皆様、学校評議員の皆様ほか本校の教育活動に日頃から深いご理解とご協力をたまわっている皆様に、再び篤く御礼を申し上げ、式辞といたします。

令和８年３月３日

長野高等学校長　廣田　昌彦